

## 平成20年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)    特定共同研究(B)    特定共同研究(C)    一般共同研究  
地震・火山噴火予知研究    施設・実験装置・観測機器等の利用  
データ・資料等の利用    研究集会

## 2. 課題番号または共同利用コード    2009 - A - 03

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: GPSによる総合的観測研究英文: Integrated Observational Research using GPS4. 研究代表者所属・氏名    東京大学地震研究所・加藤照之

(地震研究所担当教員名) \_\_\_\_\_

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
宮崎真一	京大理・准教授	研究集会参加	3月26-28日	3	有
浅井富広	東濃地震科学研究所・主任研究員	研究集会参加	3月26-28日	3	有
里村幹夫	静岡大学理学部・教授	GPS観測に関する打ち合わせ	5月25-27日	3	有

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: GPS, 大学連合, 地震予知

本研究ではGPSを用いた観測を地震予知研究の上で重要な地域において実施し、地震発生予測研究に資するデータを蓄積するとともに、関係研究者相互の情報交換と成果共有を目的とした研究集会を開催している。本年度は東海地域においてGPS観測を実施したほか、他の研究経費を用いつつひずみ集中帯での観測等を実施した。また平成21年3月には北海道大学において研究集会を実施した。

東海GPSに関してはデータ解析を実施し、GEONETと統合した変位速度ベクトル場を算出したほか、特に静岡県西部地域において短期スローイベントが頻発することから、この地域のGPSデータを集中的に解析し、移動平均などのフィルター操作を実施することによりスローイベントに伴うと考えられる変位を検出することに成功した。この成果は原著論文として公表されたほか国際会議等で発表を行った。

## 7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト\*1または2000~3000字の報告書)

(\*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

(原著論文)

松村正三・里村幹夫・内海さや香, 東海地震のアスペリティの推定(東海地域の地震活動変化と地殻変動: その5), 地震第2

輯 60巻 267-277 ページ 2008, 謝辞への記載:有, ポイント:3

(学会講演)

Satomura, M., and H. Hama, GPS has detected sub-mm level displacements - The short-term slow slip in the Tokai region by using dense GPS observation net data, Presented at the International Symposium on GPS/GNSS 2008, Nov. 11-14, Tokyo, Japan

(ポイント:2)

(講演予稿集)

Satomura, M., and H. Hama, GPS has detected sub-mm level displacements - The short-term slow slip in the Tokai region by using dense GPS observation net data, In the Program & Abstracts of the International Symposium on GPS/GNSS 2008, Nov.

11-14, Tokyo, Japan, 81p (ポイント:3)